

エコミュージアムと その理念を活用した地域振興

1. はじめに

バブル期以降の新たな地域活性化の手法として注目されているエコミュージアムは、住民が主体となり、地域が持つ多種多様な資源を収集し、整理・評価し、活用する持続的な活動によって構築されるものである。巨額の投資を要するハコ物ではなくシステムやネットワークなどソフト面を中心とするもので、地域づくりへの住民参加が求められ、社会資本整備のあり方が問われる中で、時宜を得た概念であるといえる。

本稿では、全国で取組みが広がりつつあるエコミュージアムについて、その歴史や考え方、我が国初のエコミュージアムである山形県朝日町の事例について紹介する。

2. エコミュージアムとは

エコミュージアム(ecomuseum)は、中央集権体制が強く中央と地方の経済格差が拡大傾向にあった1960年代のフランスで、産業活性化と自然をバランスさせながら農山村の復興をめざす地方開発・文化政策の一環として生まれた概念である。エコロジー(生態学、ecology)やエコノミー(経済学、economy)を意味する“eco”と、博物館を意味する“museum”を組合せた造語で、フランス語のエコミュゼ(ecomusee)を英訳したものであり、“eco”は、ギリシャ語で「家」を意味するオイコス(oikos)を語源とし、エコミュージアムの概念もまた、生活全体を包括的に表現する「家の博物館」の考え方に基づいている。

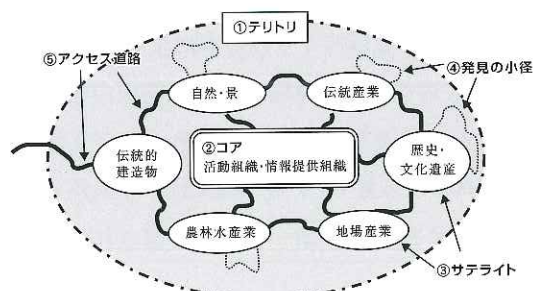
現在、フランスにはエコミュージアムが約60あるといわれ、世界的にはベルギーやカナダなどフランス語圏のほか、スペイン・ポルトガル・イタリア語圏などを中心に広がっている。

日本では、1974年に「環境博物館、生態学博物館」として初めて紹介された。当時はエコロジーの博物館と認識されたが、1980年代後半以降、地方の活性化やまちおこしの機運の高まりとともに、多くの自治体が関心を持つようになった。

エコミュージアムに一律の定義はないが、共通する考え方としては、一定の領域=地域を対象とすること、住民の主体的参加を求め、遺産や記憶について学び、調査研究を行い、現地保存を行なうことが挙げられる。とりわけ、住民の主体的な参加を通して、地域に対する理解と愛着が深まり、地域の問題への関心が高まる点に特徴がある。また、一般にエコミュージアムは、次の6つの要素で構成されているが、その形態は必ずしも固定的なものではなく、実践の中で創造されていくものである。

要素	内容
① テリトリー (境界領域)	資料や遺産が分布している範囲。テリトリーの設定に当たっては、自然や文化、産業など中心となる地域特性の明確化が必要。
② コア	本部としての機能を持つ施設・組織。資料の保存や展示だけでなく、活動の中心として事業の企画や運営を行うとともに、地域住民や来訪者へのインフォメーションセンターとしての機能を持つ。
③ サテライト	フランスではアンテナと呼ばれている。現地で保存している遺産。山・河川・湖沼などの自然、まちなみ・民家・古墳などの文化、鉱山・農場・生産工場などの産業などが対象。
④ 発見の小径	サテライト周辺の自然探索路など。生態系や景観保全に配慮した整備が必要。
⑤ アクセス道路	外部とコア、コアとサテライト、サテライト間を結ぶ道路。
⑥ サイン	コアやサテライトを位置する標識。

エコミュージアムの仕組み(イメージ)



3. エコミュージアムの理念を活用した

地域振興の先進事例 ～山形県朝日町～

我が国では、山形県朝日町、千葉県富浦町、岩手県東和町などが先進事例として知られているほか、全国から様々な取組みが報告されている。中でも、朝日町は、日本初のエコミュージアムとして全国から注目を集めている。

(1) 山形県朝日町の概要

山形県の中央部に位置する朝日町は、面積約197km²、
* 人口9,337人、
* 65歳以上の人口が全体の約31%を



最上川と朝日町市街地

占め、冬は積雪が1mに達する典型的な中山間地域で、主産業は果樹を中心とする農業である。無袋栽培のりんご「ふじ」は全国最優秀産地であり、町とJAが設立した三セクでは地域のブドウやりんごを使いワインを生産している。（*2000年国勢調査）

(2) 経緯

朝日町でエコミュージアムをまちづくりになかすようになったのは、町に移住し、山荘経営の傍ら子供たちと共に地域の自然



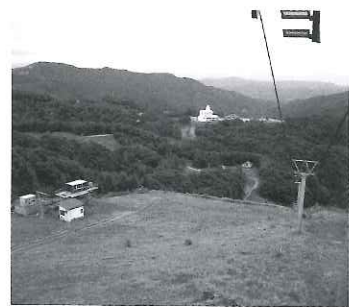
役場前に立つ朝日町エコミュージアムのシンボルマークと基本テーマの看板

を探索する「朝日ナチュラルリストクラブ」を主宰していた西澤 信雄氏を中心に、「乱開発を止め、地域環境を大切に、人々の生活や伝統に学び、誇りを持って暮らせる地域づくりをしよう」と呼びかけ、「エコミュージアム研究会」を設立(1989年)したことが発端である。

そして、「生活環境を大切にしながら楽しく暮らしていけるまちづくり」を朝日町に提案した結果、エコミュージアムの理念を取り入れた「第3次朝日町総合開発基本構想・基本計画」が進められた(1991年)。

エコミュージアム誕生の背景には、住民のまちづくりへの参加意欲が高い地域性もあった。例えば、家族

旅行村「朝日自然観」近辺にあるモニュメント「空気神社」は、美味しい空気への感謝を表す世界にも例のない朝日町



朝日山麓家族旅行村「朝日自然観」スキー場からホテルを望む

のシンボルで、環境保全を訴えるモニュメントとして、有志による募金活動などを経て1990年に完成した。現在、朝日自然観と空気神社は、一体として朝日町エコミュージアムのサテライト群の一つに指定されている。

以後、朝日町エコミュージアムの整備は、1991年にエコミュージアム研究会が中心となって策定した「エコミュージアム基本構想」に沿って進められ、サテライト整備、「エコミュージアム研究機構」の設立、「デザイン整備計画」の策定などのほか、地域資源の発掘、評価、サテライト化の検討が行なわれた。さらに、「エコミュージアム・ガイド(まちの案内人)」制度の設立や「朝日町エコミュージアム協会」の発足、コアセンター「創遊館」の整備などが構築された。

【朝日町エコミュージアムの略歴】

時期	内容
1975年	西澤信雄氏、東京から朝日町へ移住、「朝日ナチュラルリストクラブ」の活動を展開
1989年	10月:家族旅行村「朝日自然観」グランドオープン 10月:「エコミュージアム研究会」(民間団体)発足
1990年	10月:空気神社竣工
1991年	3月:「楽しい生活環境観・エコミュージアムの町」をテーマとする「第3次朝日町総合開発基本構想・基本計画」策定 10月:「エコミュージアム基本構想」調査報告書答申 10月:エコミュージアム・フランス研修団派遣
1992年	6月:「国際エコミュージアム・シンポジウム」開催(日本初)
1995年	4月:「エコミュージアム研究機構」設置 5月:町広報に「よくわかるエコミュージアム入門」掲載開始
1996年	3月:エコミュージアム研究機構「朝日町エコミュージアム・デザイン整備計画」策定
1997年	3月:エコミュージアムサテライト案内プログラム調査報告書作成
1999年	8月:エコミュージアム・ガイド(まちの案内人)の会設立 12月:朝日町エコミュージアム協会発足
2000年	3月:「自然と人間が共生し、しっかりした暮らしを築くエコミュージアムのまち」を理念とする第4次朝日町総合発展計画策定 4月:朝日町エコミュージアム協会 NPO法人格を取得 6月:エコミュージアムコアセンター「創遊館」オープン

(3) コンセプト

朝日町では、エコミュージアムを「楽しい生活環境観」と意識し、その具現化のため行政と住民が一体と

なって発想、形成、運営することを基本概念に、町固有の生活を楽しみ、町について学び、理解し、誇りを持って



朝日町エコミュージアム
コアセンター「創造館」

て生活するスタイルの確立をめざしている。また、生活、自然・社会環境の発達過程を史的に探求し、自然・文化遺産を現地で保存、育成、展示することを通して「エコミュージアムの理念」を普及し、運動を展開しながら町の発展に寄与すること目的に、独自の定義に沿って活動を進めている。

<定義>

- ・エコミュージアムは、朝日町の自然と人々の生活そのものである。
- ・朝日町の自然環境と人間によって醸成された、自然と人間との関わり合いを伝統と産業社会の発展の中でとらえ、それを表現する場である。
- ・時間の中に生きる人間を表現する博物館である。
- ・自然を含めた生活空間を演出し、表現する博物館である。

(4) 形態

朝日町におけるエコミュージアムは、朝日町エコミュージアム協会が運営主体であり、コアセンター「創造館」を中心に17のサテライト群から成っている。

【NPO(特定非営利活動法人)朝日町エコミュージアム協会の概要】

設立	1999年12月(2000年4月 法人格取得)
目的	朝日町民および朝日町を訪問した方に対し、エコミュージアムの普及および調査研究に関する業務を行い、朝日町の発展とエコミュージアム運動の振興に寄与すること。
組織	目的に賛同する法人・個人からなる会員組織。決定機関である総会の下に、理事会、3つの部会(事業普及、情報企画、総務)を設置。
事業費	町からの委託費、会費収入、個別のイベント等の運営委託費により運営。
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ◇エコミュージアム普及事業 <ul style="list-style-type: none"> ・産直事業ふれあい市場の開催支援 ・エコミュージアム寺子屋事業(小中学生対象のイベント) ◇エコミュージアム調査研究事業 <ul style="list-style-type: none"> ・2002年度は「朝日町暮らしのお宝発見2002」をテーマに、NPO、住民、行政、東北芸術工科大と連携して宝物探しを展開 ・エココーナーでのサテライト情報提供 ◇エコミュージアム催事事業 <ul style="list-style-type: none"> ・地域への浸透を狙いに、サテライトを選んで毎年イベントを開催 ◇エコミュージアム案内事業(サテライト案内人の養成講座を開催) ◇エコミュージアムサテライト事業(サテライトの調査研究) ◇エコミュージアム施設管理事業(コアセンターの運営委託) ◇エコミュージアム観光事業 <ul style="list-style-type: none"> ・サテライトを巡り、地域の良さを体験、交流、共感する学びの旅「エコミュージアム紀行」の実施 ◇情報発信 <ul style="list-style-type: none"> ・調査研究の結果を反映させたイベントの開催、出版など ・「朝日町エコミュージアム協会たより」の発行 ・2003年度以降、ホームページ立上げを検討

【エコミュージアムサテライト案内一覧表】

No.	サテライト群名称	サテライト内訳	サテライト特徴・提案
1	朝日通峰	大朝日岳・朝日鉱泉ナチュレリストの家・白滝・ブナ原生林・鳥原山・鳥原山の湿原・高山植物	登山・宿泊・自然観察・山菜採り・森林浴
2	最上川とその流域	明鏡橋・カヌーランド・上郷ダム・孫太郎石	カヌーボート下り大会・花火大会・ワインまつり・白鳥などの水鳥観察
3	朝日川とその流域	立木小学校・玉石橋・木川ダム・立木河川公園・立木橋跡	川遊び・係留釣り・芋煮会・キャンプ・魚つかみ獲り・野鳥観察
4	佐竹家とその周辺	佐竹家住宅(重文)・水口十一面観音・旧西五百川農協・水口橋跡	文化活動
5	八ッ沼とその周辺	八ッ沼城跡・若宮寺・五本樋と井戸・春日沼・春日神社・三中分校舎・長岡権四郎氏宅・野々山・修験道	沼釣り・史跡巡り・野々山ハイキング・散策
6	秋葉山とその周辺	秋葉山・白山神社・永林寺・交遊館・秋葉山橋跡	スポーツレクリエーション・秋葉山からの眺望・自然観察
7	大沼の浮島とその周辺	大沼の浮島・浮嶋稲荷神社・大行院・散策路・湖畔の家・追い分け石・賢女の墓	キャンプ・浮島周辺の散策
8	(有)朝日町ワイン	ワイン等製造工場・ぶどう園	ワイン試飲・ワイン販売
9	朝日自然観と空気神社	ホテル自然観・空気神社・スキー場・ブナ林・遊歩道・芝生広場・ワインの森・山菜加工・テニスコート	野外活動・自然観察・スキー・テニス・キャンプ・体験学習
10	りんご温泉とりんご資料館	りんご温泉・りんご資料館・炭焼き小屋・世界のりんご園	入浴・炭焼き・りんご生産等学習
11	ハチ蜜の森キャンドル	ビードーム・みつばち園	蜜ろうそく作り・みつばち観察
12	館山とその周辺	鳥屋カ森城跡・館山遊歩道・新宿の薬師如来・東永寺(鐘つき堂)・古戦場・中郷本田堰	館山散策・地域文化学習
13	豊龍神社とその周辺	豊龍神社・大杉・豊龍公園・種蒔き桜・豊龍館跡	自然観察・散策
14	大隈遺跡	大隈遺跡	日本の旧石器研究の先駆
15	能中一本松	能中一本松・扇状の棚田・ひめさゆり	自然観察・最上川展望
16	杉山の水芭蕉と長谷地ため池	長谷地ため池・水芭蕉・水源地・ズミ(こりんご)	自然観察
17	沢内地区	むがさり石・虫・古楨和紙・古楨の地蔵様	地域文化学習・紙漉き

(5) 評価と今後の展開

「エコミュージアム」は朝日町にとって全く新しい概念で、研究会の設立当初、住民には生活とかけ離れた印象が強かったという。時間をかけて地域住民への活動参加を呼びかけたが、参加者はなく、一時、研究会と地域とが乖離してしまった。また、活動はソフト面中心で、地域住民の目には見え難いという悩みもあった。そこで、研究会側が町内各地に出向き、地元のサテライトに焦点を当てたイベントを行なうことで、地域住民が身の回りについて学ぶ気風を育てていった。

また、サインの整備や「創遊館」のオープンなどで視覚的な認識もされるようになり、地元の素晴らしさに気づき、誇りを持



デザイン計画に基づき整備されたサテライトのサイン

つという目的が次第に達成されるようになった。

一方、観光資源としての売出しには一貫して慎重な姿勢だが、これは、観光客誘致に必要な理念や体制の確立、食体験の準備などの条件整備が不十分との認識によるもので、経済面で即効性が期待できる地域振興策を求める風潮が強い中、独自の見識に基づく判断と評価できる。旅行エージェントへは意図的にPRせず、観光ガイドブックにも「エコミュージアム」の文字は見当たらないが、国際シンポジウムの開催や留学生のエコミュージアム体験、視察などで町を訪れる人は増えており、地域間・国際間交流の拡大と併せ、経済効果も確実にもたらされていると考えられる。また、知名度の向上により、田舎暮らしや自然との共生を求めるU・Iターン者が増え、15～29歳の人口が5.1%増加(国勢調査1995年～2000年)するという効果も現れている。

今後は、エコミュージアムを活用した1次産業の1.5次産業化、新たな起業化の可能性を探り、NPOエコミュージアム協会自らがその担い手となることで、収益を更なるエコミュージアム活動に還元する自立的な活動を展開したいとの意向だが、そのための人材や予算の確保、体制の確立など課題も多く、周辺市町村を含む広域的な連携も視野に入れる必要がある。

4. 愛媛県内での展開の可能性

エコミュージアムが、住民参加型の地域づくりの手法として注目されていることは既に述べたとおりだが、朝日町の事例のように、その理念を浸透させるには地域の人々の熱意と息の長い取組みが不可欠である。しかも目に見える形で効果が現れにくいなど、地域振興の即効薬にはなり得ないことも事実である。しかし、一見非効率とも思える地道な活動の中にこそ、失いか

けた誇りと愛着を取り戻し、地域を復興させる力が隠されていることを強く感じた。

過疎化・少子高齢化の急速な進展や市町村合併の問題など激動する社会環境の中で、揺らいでいる地域社会の足元を今一度踏み固めるためのツールとして、エコミュージアムの活用は十分検討に値するものではないだろうか。

(当センター研究員 村上良太)

【参考文献・資料】

- 大原一興「エコミュージアムの旅」鹿島出版会
- 小松光一「エコミュージアム 21世紀の地域おこし」家の光協会
- 日本エコミュージアム研究会ホームページ
- 朝日町資料「平成14年度版朝日町のまちづくり」「朝日町エコミュージアムの紹介」「エコミュージアムとまちづくり」「山形県朝日町のエコミュージアム」
- 北海道庁 平成10年度アカデミー政策研究「地域の魅力づくりの戦略を求めて - エコミュージアムによる展開 -」